

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成30年 6月26日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H05163

研究課題名(和文) エジプト、サッカラ遺跡における新王国時代の墓の調査研究

研究課題名(英文) Research on the New Kingdom tombs in Saqqara, Egypt

研究代表者

河合 望 (Kawai, Nozomu)

金沢大学・新学術創成研究機構・准教授

研究者番号：00460056

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、従来調査研究が不十分であったサッカラ遺跡の新王国時代の墓地の調査を試み、埋葬習慣、文化史、政治史を解明することを目的とした。調査は、過去の遺跡地図の検討、衛星画像の解析、考古学的踏査、三次元地形測量、物理探査などを駆使して実施した。その結果、北サッカラのテティ王のピラミッドの北西部に約10万㎡の規模の広大な新王国時代の墓地を世界で初めて発見することに成功した。また、同地区の東側に位置する斜面においても踏査、測量、探査を実施した後、有望地点にて試掘調査を行った。その結果、従来同地区では検出されていなかった第18王朝の埋葬関連遺物が大量に出土し、付近に新王国時代の墓が存在する確信を得た。

研究成果の概要(英文)：The goal of this project is to explore the New Kingdom cemeteries in Saqqara Necropolis which has not been comprehensively studied. It is aimed to reveal the burial customs, cultural history and political history in Memphis during the New Kingdom. The exploration of Saqqara was carried out by using several methods including examination of the old maps of the site, examination of the satellite images, archaeological reconnaissance, mapping survey, and geophysical prospections. As a result, we discovered an extensive New Kingdom cemetery in the area to the north-west of Teti Pyramid, measuring approximately 100,000㎡. We also conducted another survey in the eastern slope of the escapement, which is located to the east of the aforementioned New Kingdom cemetery. Then, we conducted archaeological sounding in the most promising place in the eastern slope and revealed a number of artifacts dating to the Eighteenth Dynasty, indicating the existence of New Kingdom tombs in the vicinity.

研究分野：考古学

キーワード：考古学 エジプト学 新王国時代 サッカラ 墓地 踏査 探査 発掘

1. 研究開始当初の背景

早稲田大学古代エジプト調査隊は、1991年以來、アブ・シール南丘陵遺跡で発掘調査を継続してきた(図1)。当該遺跡では、古王国時代から末期王朝時代までのさまざまな遺構が検出された。特に、丘陵頂部から発見された新王国時代のラメセス2世の息子、カエムワセト王子の葬祭殿とその娘イシスネフェルトの墓の発見は、それまでの新王国時代のサッカラ・ネクロポリスの範囲を塗り替えることとなり、世界の学界に注目された。

この発見により、研究代表者は、当該地域における新王国時代の墓地の形成に関心を持つようになり、よりマクロな視点から新王国時代のアブ・シール～サッカラにおける墓地の分布調査の必要性を認識した。また、サッカラ遺跡における新王国時代の墓地は、エジプト南部(上エジプト)の中心都市テーベの西岸の墓地遺跡に比べ調査研究が進展しておらず、そのため新王国時代の文化史はテーベに偏重されてきた。このような研究の状況からもサッカラにおける新王国時代の墓の調査が必要であるという認識を強くし、科学研究費補助金基盤研究(BX海外学術調査)に申請し、採択を受け、本研究を開始した。

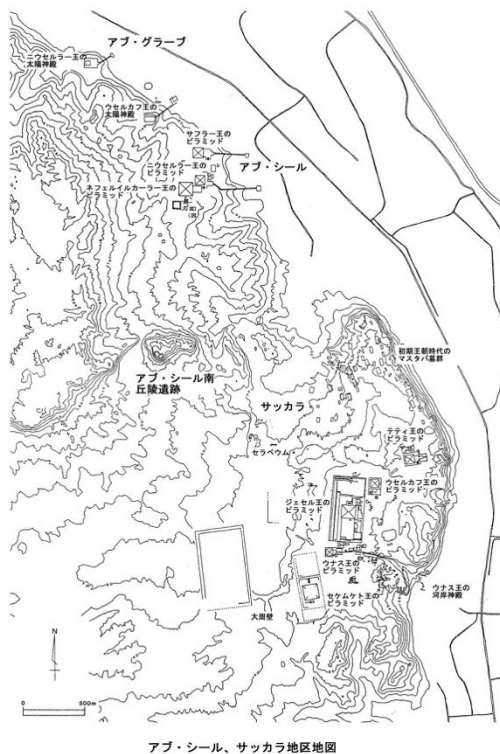


図1 アブ・シール、サッカラ遺跡地図

2. 研究の目的

本研究は、従来の上エジプトの中心都市テーベの墓地の資料に偏重した古代エジプト新王国時代の文化史を是正すべく、下エジプトの中心都市であるメンフィスの主要墓地であるサッカラ遺跡における新王国時代の墓地の分布を明らかにし、考古学的発掘調査により新王国時代にサッカラに埋葬された

メンフィスの人々埋葬習慣と政治的・社会的役割を解明することを目的とした。

3. 研究の方法

研究の方法は、広大なサッカラ遺跡から新王国時代の墓地を検出するため、まず発掘調査地選定のための調査を実施した。具体的には、国内で過去の遺跡地図の検討と人工衛星画像の解析を実施し、有望箇所を選定した。

エジプト現地では考古学的踏査を行い、表採遺物の分布から新王国時代の墓地の位置を明らかにした。その際にGPSレシーバーを使用し、人工衛星画像上に分布をプロットできるようにした。その後、新王国時代の墓地の存在が想定されるエリアの3次元地形測量と物理探査を実施し、より具体的に墓地の位置を絞り込んでいった。いくつかの有望地点から最有力地を選出し、試掘を行い、新王国時代の埋葬の存在を確認するという手順で調査を実施した。

4. 研究成果

2015年度には、サッカラ遺跡における新王国時代の墓地に関する既往研究の調査、過去の遺跡地図の収集、人工衛星画像の解析等による現地調査の準備を進める一方で、エジプト政府考古省よりサッカラ遺跡の踏査の許可を申請したところ、諸事情にてようやく2016年に許可が下り、2016年5月に踏査(第1次調査)を実施した。踏査の結果、北サッカラ地域に数カ所の新王国時代の墓地が存在すると思われる有望地点が明らかとなった。中でもテティ王のピラミッドの北西部に約100,000㎡の規模の広大な新王国時代の墓地の存在を世界で初めて明らかにした(図2)。この地区は大規模な盗掘は受けているものの、これまで考古学的な発掘調査が行われていない。確認された遺物の傾向としては、古王国時代第4王朝の土器が当該地区全体で検出され、新王国時代の土器は第18王朝初期から中期の土器が当該地区の東側に集中し、第18王朝後期からラメセス朝の土器が西側に集中する傾向がみられた。おそらく、この地区では古王国時代に墓地が形成され、長い断絶の後、その上に東側から徐々に新王国時代の墓が造営されたと推定された。当該地区には約500箇所のクレーター状の窪みが観察され、これらはシャフトや壁体などの遺構の痕跡とみられる。舌状の丘陵の西側には、考古省が発掘調査を行った古王国時代のカエムメスウのマスタバ墓の周辺には新王国時代に年代付けられるとみられるシャフトが散在し、同時代の土器も多く確認された。

以上の調査の結果を受け、同年8月から9月にかけて、踏査の継続に加え5月に発見した新王国時代の墓地の3次元地形測量と物理探査を実施した。また、付近に岩窟墓の存在が想定されるサッカラ台地の東側に位置する第19王朝ラメセス2世時代の岩窟墓の周辺、そして同じサッカラ台地の東側の

崖部で岩窟墓の存在の可能性が高い場所(A地区)でも測量と物理探査を実施した。これまでサッカラの遺跡地図は、1978年にフランスが作成したエジプト政府住宅省の地図に依拠しており、当該地区の詳細な地図が存在しなかったため、今回の地形測量によって地図が作成できたことは特筆に値する。また、東海大学情報技術センターの恵多谷雅弘氏による人工衛星画像データの現地確認調査、グランド・トゥルースが実施され、衛星画像の特徴と実際の遺跡の様相を照合した。

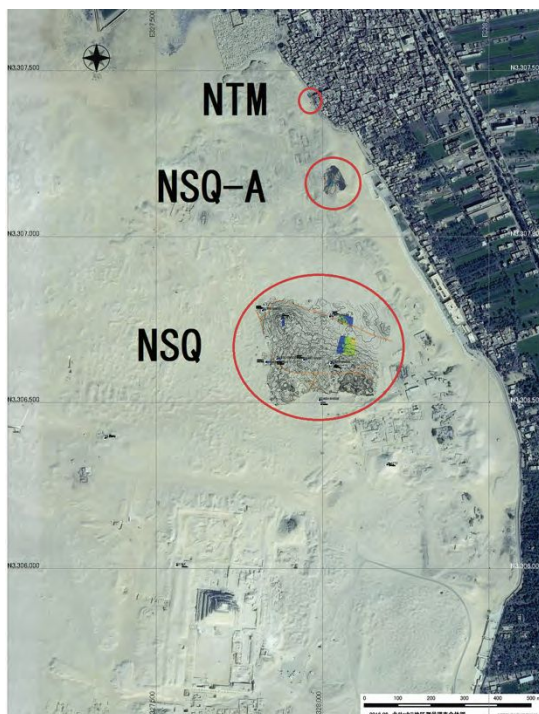


図2 第1次、第2次調査調査地区 (NSQは新たに発見した新王国時代の墓地。NSQ-AはA地区。NTMは第19王朝の岩窟墓とその周辺)

2017年の調査では、予てから海外の研究者に新王国時代の高官の岩窟墓の存在が推定されている北サッカラ台地の東側斜面において踏査、探査、試掘調査を実施した(図3)。踏査の結果、4箇所が新王国時代の遺構が存在する有望地点として選定され、そのうち2箇所でも物理探査を実施した。最終的には、2016年5月の踏査で新たに発見した新王国時代の墓地の東側に位置し、これまで新王国時代の墓地が確認されていたテティ王のピラミッド北墓地にも近い東側斜面の通称C地区で試掘を行なった。試掘の結果、表層から近い位置から末期王朝時代からプトレマイオス朝時代に年代づけられる手付かずの単純埋葬が20基以上検出された。また、トレンチ内の堆積層は、これまで同地区では確認されていなかった新王国時代第18王朝に年代づけられる埋葬関連の遺物を多く包含しており、近辺に同時期の墓が数多く存在することが推察された。そして、トレンチ下部に設定したサブトレンチの発掘から、おそらく新

王国時代頃に造られたと思われる人為的なタフラ層(粘土質の石灰岩層)の硬化面が確認された。さらに、トレンチの西側の最下部からは、岩盤の露岩域が検出された。この岩盤の露岩域は、サッカラ遺跡の他の地域の新王国時代の岩窟墓が位置する特徴と類似している。おそらく、この露岩域の下に岩窟墓が穿たれている可能性が推察され、タフラ層の硬化面は墓の前庭部のようなプラットフォームとして機能していた可能性も推測された。今後、本格的な発掘調査を実施していく予定である。



図3 第3次調査調査地区 (左に新たに発見した新王国時代の墓地。A~D地区は有望箇所。なお、C地区は試掘を行った場所)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9件)

河合 望、吉村作治、近藤二郎、柏木裕之、高橋寿光、米山由夏、石崎野々花、菅沼奏美、第3次北サッカラ遺跡調査概報：試掘調査、エジプト学研究、第24号、pp. 82-112
http://www.egyptpro.sci.waseda.ac.jp/pdf%20files/JES24/5_sakkara3_2.pdf

河合 望、三井 猛、吉村作治、近藤二郎、柏木裕之、高橋寿光、梅田由子、米山由夏、石崎野々花、菅沼奏美、第3次

北サッカー遺跡調査概報：踏査、測量、探査報告、エジプト学研究、第 24 号、pp. 48-81
http://www.egyptpro.sci.waseda.ac.jp/pdf%20files/JES24/3_abusir26.pdf

吉村作治、河合 望、近藤二郎、苅谷浩子、高橋寿光、米山由夏、石崎野々花、菅沼奏美、第 26 次アブ・シール南丘陵遺跡調査概報、エジプト学研究、第 24 号、pp. 13-24
http://www.egyptpro.sci.waseda.ac.jp/pdf%20files/JES24/3_abusir26.pdf

河合 望、高橋寿光、エジプト、サッカー遺跡の新王国時代の墓地を掘る－北サッカー遺跡第 3 次調査(2017)概報-、第 25 回西アジア発掘調査報告会報告集、pp. 104-109

河合 望、三井 猛、吉村作治、近藤二郎、柏木裕之、高橋寿光、梅田由子、米山由夏、石崎野々花、第 2 次北サッカー遺跡踏査概報、エジプト学研究、第 23 号、pp. 145-181
http://www.egyptpro.sci.waseda.ac.jp/pdf%20files/JES23/10_saqqara2.pdf

河合 望、吉村作治、近藤二郎、高橋寿光、米山由夏、石崎野々花、第 1 次北サッカー調査概報、エジプト学研究、第 23 号、pp. 127-144
http://www.egyptpro.sci.waseda.ac.jp/pdf%20files/JES23/9_saqqara1.pdf

吉村作治、河合望、近藤二郎、高宮いづみ、柏木裕之、高橋寿光、米山由夏、石崎野々花、第 25 次アブ・シール南丘陵調査概報、エジプト学研究、第 23 号、pp. 114-126
http://www.egyptpro.sci.waseda.ac.jp/pdf%20files/JES23/8_abusir25.pdf

河合 望、高橋寿光、古代エジプト新王国時代の墓地の調査 エジプト、北サッカー遺跡の踏査(2016年)-、第 24 回西アジア発掘調査報告会報告集、pp. 148-151

河合 望、高橋寿光、吉村作治、古代エジプト聖なる丘の発掘調査 - エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡第 25 次調査(2016年)-、第 24 回西アジア発掘調査報告会報告集、pp. 152-155

〔学会発表〕(計 17 件)

Nozomu Kawai, Lion Goddess in Saqqara, Gods of Saqqara, Rijksmuseum van Oudheden, Leiden, Netherland,

November 18, 2018 (招聘講演)

河合 望、高橋寿光、米山由夏、石崎野々花、菅沼奏美、エジプト、北サッカー遺跡第 3 次調査(2017)で出土した末期王朝時代からプトレマイオス朝時代の埋葬について、日本西アジア考古学会第 23 回総会、金沢、2018 年 6 月 18 日

Nozomu Kawai, Exploring the New Kingdom Tombs at North Saqqara, The 69th Annual Meeting, The American Research Center in Egypt, Tucson, Arizona, USA, April 21, 2018.

河合 望、エジプト、サッカー遺跡の新王国時代の墓地を掘る－北サッカー遺跡第 3 次調査(2017)概報-、第 25 回西アジア発掘調査報告会、2018 年 3 月 25 日

Nozomu Kawai, The Statues of Lioness Goddess at the Rock-Cut Chambers at Northwest Saqqara and Their Funerary Cult in the Middle Kingdom Egypt, Women ' s Religious and Economic Roles in Antiquity, Chuo University, November 11, 2017.

河合 望、高橋寿光、エジプト北サッカーにおける新王国時代の墓地:2017 年の調査を中心に、日本オリエント学会第 59 回大会、2017 年 10 月 29 日

Nozomu Kawai, The Tomb of Isisnofret and Recent Work at North Saqqara, The ARCE Lecture, The American Research Center in Egypt, Cairo Headquarter, Cairo, Egypt, September 20, 2017.

河合 望、新王国時代のメンフィスとその墓地について、エジプト学セミナー 2017、関西大学国際文化財・文化研究センター、2017 年 7 月 23 日 (招聘講演)

Nozomu Kawai, An Early Eighteenth Dynasty multiple burial at North Saqqara, Second Intermediate Period Assemblages The Building Blocks of Local Relative Sequences of Material Culture, Austrian Academy of Science, Vienna, Austria June 23, 2017 (招聘講演)

Nozomu Kawai, The Lioness goddess statues from the rock-cut chambers at Northwest Saqqara, Sekhmet Omnipresent, The Mummification Museum, Luxor, Egypt, March 26, 2017 (招聘講演)

河合 望、高橋寿光、古代エジプト新王国時代の墓地の調査 エジプト、北サッカー遺跡の踏査(2016年)-、第24回西アジア発掘調査報告会、2017年3月26日

河合 望、高橋寿光、吉村作治、古代エジプト聖なる丘の発掘調査-エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡第25次調査(2016年)-、第24回西アジア発掘調査報告会、2017年3月26日

Nozomu Kawai, Excavating a Sacred Outcropping at North-west Saqqara, Egyptological Lecture, University of California, Berkeley, March 9, 2017.

Nozomu Kawai, The unusual New Kingdom Tomb-chapel of Isisnofret on a rocky outcropping at Northwest Saqqara, Egyptological Lecture, UCLA, University of California, Los Angeles, March 3, 2017.

河合 望、エジプト、サッカーにおける新王国時代の墓地について、日本オリエント学会第58回大会、2016年11月13日

河合 望、トットアンクアメン王時代のエジプト、関西大学エジプト学研究セミナー、関西大学国際文化財・文化研究センター、2016年7月31日(招聘講演)

河合 望、エジプト、北サッカーにおける新王国時代の墓地の調査研究 サーベイを中心に、日本西アジア考古学会第21回総会・大会、2016年6月26日

〔図書〕(計 3件)

エジプト学研究セミナー、関西大学国際文化財・文化研究センター、2017年3月

柴田大輔、中町信孝(編著)、イスラームは特殊か 西アジアの政治と宗教の系譜、勁草書房、2018年2月

エジプト学研究セミナー 2017、関西大学国際文化財・文化研究センター、2018年3月

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
<https://researchmap.jp/1336tutankhamun/>
<https://kanazawa-u.academia.edu/NozomuKawai>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河合 望(KAWAI, Nozomu)
金沢大学・新学術創成研究機構・准教授
研究者番号：00460056

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

吉村 作治(YOSHIMURA, Sakuji)
東日本国際大学・経済経営学部・教授
研究者番号：80201052

近藤 二郎(KONDO, Jiro)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：70186849

高橋 寿光(TAKAHASHI, Kazumitsu)
東日本国際大学・エジプト考古学研究所・客員講師
研究者番号：3050632

柏木 裕之(KASHIWAGI, Hiroyuki)
東日本国際大学・エジプト考古学研究所・客員教授
研究者番号：60277762

恵多谷 雅弘(ETAYA, Masahiro)
東海大学・情報技術センター・事務長
研究者番号：60398758

(4) 研究協力者

()